

さくら第553号

# さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7・Tel.51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

令和8年 1月

鶴舞ふや 日は金色の雲を得て 季語||鶴(冬) 杉田久女 鶴が舞っているなあ。日(太陽)が照って雲が金色に輝いている。

みかんも  
りんごも  
おたかに  
くらべっこも  
競争もしなけれど  
それをね  
ひちひち  
じぶんの  
花を咲かせ  
じぶんの家を  
つける  
みんも

## 『干支と左馬』

干支は、中国から日本に伝来し、古墳時代から飛鳥時代にかけて普及しました。奈良時代には公式な暦や年号が日常生活でも使われ始め、日本独自の風習や信仰とも結びついてきました。干支は、十干と十二支の組み合わせで構成され、60年で一まわりします。

十干は10種類の要素から成り、十二支は12種類の動物から成り、それぞれの動物には深い意味があり日本の四季や農作業、祭事などと深く関わっており、日常生活や行事、伝統行事に溶け込む大切な要素となっています。

12の動物をモチーフにした、日本でもおなじみの「十二支」。でも、鼠は子、牛は丑、虎は寅、兎は卯…など、普段使っている漢字とは違う漢字が使われています。

実は、十二支はもともと1日24時間の時刻を12で割り、「子・丑・寅…亥」で表していた指標で、方角や年の数え方にも使われてきたものでした。そこから人々に広く浸透させるために身近な動物を当てはめたと言います。

2026年は午年(うまどし)です。古来、馬には郵便や荷物などを運び、農業に必要な不可欠な動物であり、馬の力強さは人間の生活を支える働きがあり、馬には「健康」や「豊作」などの意味があります。

もともと子・丑・寅…の順番は決まっていたため、「午」を身近な動物の「馬」と読ませたとされています。馬の意として当てはめられた漢字の「午」はもともと餅をつく道具である「杵」の”つくり”にある文字です。

餅作りは交互に杵でつくことから「午」は「切

り替え」、「交差」という意味があります。そこから1日の前半と後半を分ける言葉に使われ、「午前」、「午後」と呼ばれるようになりました。

古来、馬は縁起がよい動物といわれており、中でも馬の字を反転させた「左馬(ひだりうま)」は招福のシンボルとされておりその由来は、馬には右から乗ると転ぶという習性があるため、必ず左側から乗るとされ、つまり「左馬は倒れない」として、人生をつつがなく過ごせるという意味が込められています。



また、中国には「左」は「右」よりも優位に立つという思想もありました。中国の影響を受けた日本の官位制度でも右大臣よりも左大臣の方が上位ですね。

馬自体縁起の良い動物であることと、左向きの方が尊いという文化的な背景がありました。ではなぜ、鏡文字の「左馬(ひだりうま)」が特に縁起物とされるのでしょうか？

「うま」を左右反対に読むと、「まう」となり「舞い」は神様に捧げる神事でおめでたい席で奉納され縁起がよいといえます。

昔の財布はきんちやく袋でした。馬の字の下の部分がきんちやく袋の口に似ているので、「しっかり口が閉まってお金が出て行かない」ということで縁起が良いという説もあります。

馬は立ったまま寝ることができるため、安全な環境ならどこでもうとうとします。

午年生まれの人は、明るく活発な性格で「こうしよう」と思い立ったら即実行する決断力と実行力、スピーディーさがあります。

責任感と独立心が強く、コミュニケーション能力が高く、華やかさと陽気さで注目を集める人気者です。馬は人がひくものですが左馬は逆に馬が人をひき、招き入れるといえます。今年は左馬のようにどのような人を招き、明るく楽しい充実した日々を過ごしていきますか。

左馬は実際に将棋に使う駒ではなく、「王将」などと並んで「飾り駒」として山形県天童市の伝統工芸品として江戸時代後期から縁起物として制作されています。